

社会福祉法人 恒和永千会

平成29年度事業報告

今年度、和気事業所では男性利用者が3名退所する。1名は、本人の希望及び保護者の意向を汲み、他県の事業所で数回の体験を行ない移行の運びとなった。

利用者補充へ向けて、施設見学ならびに体験利用等の促進を行なう。年明けから入所希望の問い合わせが増え、3月下旬に1名が入所となる。また3月下旬には、1名の方が入所へ向けての体験利用を行なった。

短期入所はリピート率が高く、年間を通じて同じ方が利用される。男性に比べ、女性の利用が少なく、今後どのように情報を発信していくべきか課題も見える。

表町の事業所においては新規利用者はいなかった。近隣の支援学校を訪問し、事業所での活動内容や特徴を伝えるとともに、学校及び保護者からの要望、質問等を聞く。

支援学校から女子生徒の実習を受ける。保護者も今後の進路について、表町分場の利用を希望する。従って4月より1名増員になる予定である。

日中一時支援事業については、問い合わせもなく事業の見直しの検討が必要である。

サービスの質の向上において、昨年度の反省を持ちながら、清掃への意識強化を図る。その中で、臭いや傷みの指摘が多かった、1階西側の男性トイレの全面改修を行なった。また防犯対策の強化策として、4月に施設内外16ヶ所に防犯カメラを設置した。

人材育成において、職員それぞれが内部・外部研修に参加する。知識・技能の底上げを目的に進めてきたが、個人に格差があるように感じた。この差をどのように狭めていくか、来年度への課題も見えてくる。

社会福祉法人 恒和永千会 障害者支援施設ぽればれ
平成29年度事業報告

■本場:(生活介護、施設入所支援、短期入所)

昨年と同様に衣食住に重点をおき、サービスの質の向上に取り組んだ。

衣については衣替えを一斉に行なうことで、季節に応じた服を着用できた。タンス整理を徹底してほしいと家族より要望が多くあがった。担当職員を中心に取り組んだ。食については栄養ケアマネジメント計画を取り入れ、計画に基づいて利用者個々の実態にあった食事メニューの提供ができた。住についてはトイレ掃除に重点を置き、年度末にはトイレの改修工事が終わった。担当職員を決めて1日に2回トイレ掃除の時間を設定した。居室掃除は共有スペースに比べ、掃除が行き届かなかった。担当職員、又は活動で進めていくか課題も見えてくる。

日中活動においては施設内においてトランポリン、ボールプール、パズル、創作活動(塗り絵・絵描き)を取り入れた。施設外では前半はリサイクル作業やウォーキングに取り組めたが、後半は職員の減少により外での活動が減った。

クラブ活動については園芸クラブ、缶バッチ作り(わくわくクラブ)、マラソンクラブ、音楽クラブで実施する。園芸クラブは季節に応じた花、野菜を植え、缶バッチ作り(わくわくクラブ)では南相馬市にある南相馬ファクトリーが主催している缶バッチのデザインコンクールに出品した。利用者のデザインが採用され、行事の時、来訪者に配布した。マラソンクラブは美作国際サーキット・西大寺のマラソン大会に10名程度出場した。参加者は全員完走される。音楽クラブは保護者が来訪して歌を歌う、聴く、ペットボトルのマラカスの作成をして楽しめる。年に1度のみの実施であったため、増やしていきたいという意見が多かった。

乗馬については利用者の重度化に伴い、今現在のプログラムが実態にそぐわなくなっている。プログラムを新たに見直す必要がある。

地域社会との連携に置いては小坂地区の夏祭り、子供神輿、草刈りに参加する。

短期入所に関しては昨年に比べ、4%程稼働率が下がる。昨年の利用実績:(4月～3月 49%) 今年度利用実績:(4月～3月 45%)原因としては感染症が流行り、利用率が減少した。感染症への対策も今後の課題である。

■表町分場(生活介護、日中一時)

・活動については個々に貼り絵、紙チップアート、縫物等の作り、県立図書館や展覧会に展示した。

・5名のうち1名は本場を利用してもらおう。(短期入所と併用)

・焼肉、クリスマス会は初めての試みとして、お店で行なう。

・日中一時支援事業については見学者ならびに利用希望者はなかった。

・実習生受け入れについては岡山西支援学校から実習生を1名受け入れる。